

この間の豪雨や台風、大阪北部と北海道における大地震の被害を受けられました皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧をお祈りいたします。現在会員登録数 2,777 人さま。次号は 10 月 20 日発行の予定です／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》読書活動ボランティアのためのワンポイント 97

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

■-----■  
【1】お知らせ

● 講演会「ふしぎの描き方ーあまんきみこ & 富安陽子の世界」

講演 1 : 「あまんきみこにとっての「ふしぎ」

講 師 : あまんきみこ (児童文学作家)

聞き手 : 土居安子 (当財団総括専門員)

講演 2 : 「富安陽子にとっての「ふしぎ」

講 師 : 富安陽子 (児童文学作家)

鼎 談 : 「ふしぎの描き方」

講 師 : あまんきみこ、富安陽子、宮川健郎 (当財団理事長)

日 時 : 11 月 10 日 (土) 午後 1 時 45 分 ~ 4 時 15 分

場 所 : 大阪府立中央図書館 2 階大会議室 (東大阪市荒本)

定 員 : 80 人 (申込先着順)

参加費 : 1,000 円

主 催 : 一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

後 援 : 大阪府立中央図書館

助 成 : 子どもゆめ基金助成活動

詳細・申込み → [http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

● 「第 35 回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは 10 月 31 日 (水) です。詳細は ↓ ↓

[http://www.iiclo.or.jp/07\\_com-con/02\\_nissan/index.html](http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html)

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第 32 号の原稿を募集しています。お申し込み、詳細は ↓ ↓

[http://www.iiclo.or.jp/06\\_res-pub/04\\_journal/boshu.html](http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/boshu.html)

◇「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要 第31号」を販売しています。

発行：当財団 2018年3月 A5判 128頁 1400円＋税

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。

お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

● 当財団公式 Twitter → [https://twitter.com/IICLO\\_News](https://twitter.com/IICLO_News)

■ ----- ■  
【2】コラム  
■ ----- ■

\*\*\*\*\*

《1》この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

\*\*\*\*\*

『泥』ルイス・サッカー/作 千葉茂樹/訳 小学館 2018年7月 対象年齢：小学校高学年以上

あらすじ：アメリカ合衆国ペンシルベニア州の伝統ある学校に通う小学5年生のタマヤは近くに住む7年生のマーシャルと一緒に学校を往復していた。マーシャルは同級生のチャドから執拗ないじめを受けており、待ち伏せを回避するために、二人は森の中を歩いて家に帰り始める。それをチャドが追いかけてきて、マーシャルに殴りかかり、タマヤは近くにある泥を投げつけたが、マーシャルと逃げて帰る。ところが、次の朝、タマヤの手には湿疹ができ、チャドは行方不明になっていた。

T：この作品には、大きな枠組みとして環境問題、エネルギー問題があり、身近な問題としてタマヤ、マーシャル、チャドの家庭や学校問題、特にいじめの問題があります。

Y：エネルギー問題については、「泥とは何か」という謎解きの要素になっており、タマヤたちの日常の間にはさまれる議員や博士が出席している聴聞委員会の記録によって徐々に解き明かされていきます。そこには政治的な駆け引きがあります。

T：大きな物語と小さな物語が絡み合っているところに、この作品のスケールの大きさとおもしろさを感じます。

Y：泥の正体がわからない様子は、「目に見えないもののほうがおそろしかった。」(p.135)とあるように、放射線を思わせ、森の中にある工場は、原子爆弾の開発が思い起こされてぞっとしました。

T：視点人物のタマヤは両親の離婚に傷つきながらも嘘がつけない「まじめない子ちゃん」。彼女だからこそ、チャドの命が救われたという点に、きまじめさを評価する著者の姿勢を感じました。

また、この作品の重要な要素として、森の存在が挙げられると思います。学校や家という日常に対し、非日常である森は聖なるものと邪悪なものを兼ね備え、タマヤたち3人に苦しみと喜びを与えます。

Y：森は自然を象徴すると同時に、タマヤが森に入った時、「自分たちが邪悪な魔女の家に向かっている歩くヘンゼルとグレーテルみたい」(p.47)と言っているように、物語の舞台として描かれています。重層的な物語を楽しませてくれるところにサッカーらしさを感じます。

T：サッカーらしいという意味では、後半、内容がどんどん深刻になる中で、ユーモアを含んだ文章で希望を持たせながら読ませるといった点も挙げられます。結末で、

チャドが前半に出てきたせりふと同じせりふを違う意味で使うという工夫はとてもおしゃれだと思いました。

\* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

\*\*\*\*\*

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

\*\*\*\*\*

第37回「ポラーノの広場」その2

つめくさのあかり

前号に続き、「ポラーノの広場」を取り上げます。

「おや、つめくさのあかりがついたよ。」ファゼーロが叫びました。

なるほど向うの黒い草むらのなかに小さな円いぼんぼりのような白いつめくさの花があっちにもこっちにもならび、そこらはむっとした蜂蜜のかおりでいっぱいでした。

逃げた山羊を追ってきたキューストは、つかまえてくれた少年・ファゼーロが「ポラーノの広場」を探していると聞きます。「ポラーノの広場」とは、昔話に登場する〈野はらのまなかの祭のあるところ〉であり、つめくさの花の番号を数えていくと見つかる場所。広大なイーハトヴオの野原のなかを、つめくさが灯すあかりを数えていくというシーンが実に印象的です。

そのつめくさ。マメ科の多年草で、賢治の作品ではお馴染みの植物ですが、全童話に登場する植物（木・花・草）について調べた研究によると、木では「柏」、花では「鈴蘭」、草では「つめくさ」が頻出数でトップを占めるそうです（平智ほか「宮沢賢治の童話作品に登場する植物について」2012年）。本作では〈小さな蛾の形の青じろいあかりの集り〉と書かれていることから、シロツメクサ、つまりクローバーのことと考えられています。

〈私はこの一冊の、どの一篇を読んでも、たちまち胸に透明な懐かしさが溢れてほとんど涙がこぼれそうになる。それはたぶん賢治の作品が一つの例外もなく、あのつめくさ（クローバー）の匂いを立ちのぼらせているからだろう〉と書くのは井上ひさしです（「つめくさの道しるべ」新潮文庫版『注文の多い料理店』収録）。

井上によると、明治初年、中央は〈北海道と岩手にはとくに熱心につめくさの播種を勧めた〉そうです。つまり国はつめくさを通し、農だけでは立ち行かない岩手を放牧および国内有数の軍馬産出地となることを期待したのでした。その意味で、つめくさは当時貧しいと言われた岩手の〈希望の光〉（井上）であったと言えます。

物語の終末部分、〈つめくさのあかりが一つまたもっていました。わたくしはそれを摘んで、えりにはさみました〉という表現があります。キューストが、本当のユートピア「ポラーノの広場」をつくるファゼーロたちと別れる箇所ですが、この7年後、ファゼーロは立派な一つの産業組合をつくるに至ります。キューストが襟に挟んだつめくさは、そのことを期待する希望であったとも言えそうです。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『ポラーノの広場』によりました。）

\*\*\*\*\*

### 《3》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 97

\*\*\*\*\*

その11 さまざまなご質問にお答えします (15) ボランティア活動 先輩・後輩

質問：ボランティアグループで先輩の発言力が大きくてプレッシャーを感じます。

これはよく相談される内容です。20年以上のキャリアのある先輩と初めて1年ぐらいのメンバーと一緒に活動すると、知識も経験も大きくへだたりがあり、先輩の意見に異論をはさむのはかなり勇気がいります。せっかく勇気を出して言っても相手にされなかったり、強く否定されると、思うことがあってもなかなか意見を言いにくくなってしまいます。

私は、1冊の絵本や1つのおはなしに向かう時にはキャリアに関係なく、みんなが平等だと思えます。どんな意見もいったんは受け入れながら、グループとしての方向性を見出していくことが大切だと思います。

同じように、子どもたちの前に立てば、誰もが一人の人間として子どもに向き合うのであり、キャリアは関係ありません。積み重ねて来たものがその人のものとして子どもに伝わることはあっても、子どもにとってその人が何年活動をしてきたかということの意味がないことです。

ですので、先輩の人たちは、みんなの意見を聞くことを大切にし、新しく活動を始めた人たちは恐れず、自分の意見を言い、同時に他の人の意見を聞く姿勢が大切だと思います。そしてそれがうまくできていない場合は、お互いに一時的に気まずくなっても率直に話し合った方がいいと思います。

\*次号は「その11 さまざまなご質問にお答えします (16)」の予定です。  
ぜひ、ご質問やご意見をお待ちしております。(Y)

\*\*\*\*\*

### 《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

IBBY(国際児童図書評議会)のギリシャ・アテネ大会に行ってきました。

8月30日から9月1日まで、ギリシャのアテネでIBBY世界大会が開催されました。全体テーマは「East Meets West around Children's Books and Fairy Tales」(東と西が出会うとき—子どもの本と昔話を中心に—)で、それに関連するペリー・ノーデルマン博士(カナダ・ウィニペグ大学名誉教授、第15回国際グリム賞受賞者)などによる基調講演のほか、研究発表も行われ、私も日本の絵本の状況について具体例を示しながら報告しました。

その中でもクライマックスは、国際アンデルセン賞の授賞式。作家賞は角野栄子さん、画家賞はロシアのイーゴリ・オレイニコフ(Igor Oleynikov)さんでした。角野さんは、子どもの頃、お父様からお話してもらった「桃太郎」を「どんぶらこっこーう すっこっこーう」というオノマトペとともにお話になり、日本語を解さない海外の人たちにもその音が耳にすーっと入ってきてとても心地よく、物語とは何かについて考えさせられたという感想を多くの人からうかがいました。

ギリシャの遺跡が随所にあり、神話の雰囲気漂うアテネで大会に参加したことによ

り、改めて世界の子どもの本の状況について考える機会を得ました。難民問題やめまぐるしいメディア変化など、課題は山積ですが、子どもの本を大切に思う人たちが集うあたたかい雰囲気の中で、希望を感じながら帰路につきました。

※角野さんの受賞のことば（和文・英文）は <http://jbby.org/>  
大会を取材した NHK の番組（9/6 BS のアーカイブ、約 10 分）は  
<http://www6.nhk.or.jp/kokusaihoudou/bs22/lounge/index.html?i=180906>  
で、ご覧いただけます。（Y）

### 【3】全国のイベント紹介

#### ● 大阪府子ども文庫連絡会 公開講座

「やっぱり図書館が大事Part27 子どもの読書と学びを考える～公共図書館と学校図書館を通して～」

講 師：塩見昇（大阪教育大学名誉教授、日本図書館協会顧問）

日 時：10月9日（火）午前10時～12時 講演会 午後1時～3時 交流会

会 場：大阪市立中央図書館 5階大会議室（大阪市西区北堀江）

定 員：250人 交流会は60人（当日先着順、申込み不要）

参加費：無料 資料費：100円

主 催：大阪府子ども文庫連絡会 共 催：／大阪市立中央図書館

#### ● 「森の素材を使って 絵本をつくろう！」

貝塚市にある自然いっぱいの少年自然の家の森を、絵本の物語を創造しながら探検し、森で見つけたものを使って自分だけの絵本づくりを楽しみます。

講 師：土居安子（大阪国際児童文学振興財団 総括専門員）

日 時：10月21日（日）午前10時～午後4時

対 象：幼稚園年長および小学生を含む家族

定 員：10家族または30名

参加費：有料 申込み：必要（申込先着順）

主 催：大阪府立少年自然の家

協 力：大阪府立中央図書館 ／大阪国際児童文学振興財団

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

[http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/04\\_other/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html)

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

### 【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『泥』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガ N0.97 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ [office@iiclo.or.jp](mailto:office@iiclo.or.jp) にお送りください。締切は10月10日(水)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

ラグビーシャツ姿の市役所職員を目にし、「ラグビーワールドカップ 2019」が、

ここ東大阪市で開催されることを改めて認識しました。スポーツ界全体では、まだまだすっきりとしない話題がある中、テニス全米大会での大坂なおみさんの優勝は、とびきり明るい話題でした。こんなワクワクドキドキで、みんながもっと元気になればいいですね。（T A）

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

- このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。
  - 配信の登録・解除・変更は、  
[http://www.iiclo.or.jp/ml\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/ml_magazine/index.html) パソコンからどうぞ
  - このメールの送信アドレスは配信専用です。
  - 記事の無断転載はご遠慮ください。
- 

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>  
〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内  
TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---